

## 概観

### 【内政・社会】

- ・ 1日, ラデフ大統領及びボリスフ首相による新年の挨拶発信。
- ・ 10日, ペルニック水不足問題を背景とするディモフ環境・水大臣に対する起訴。
- ・ 15日, ディミトロフ環境・水大臣の就任。
- ・ 29日, 社会党が提出した4度目の政府不信任決議の否決。

### 【外 政】

- ・ 8日, ブルガリア・米間の戦略対話の開催。
- ・ 21日, ボリスフ首相, ダボス会議に出席。
- ・ 22日, ザハリエヴァ外相, 欧州委員会副委員長等との会談。

### 【経 済】

- ・ 第3四半期のGDPの成長率が, 前四半期の3.8パーセントから3.1%に減速。
- ・ 8日, トルコ・ストリームの開通式。
- ・ 固定為替相場変更の可能性。

この月報はブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり, 在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

## 内政

### ◆ラデフ大統領及びボリスフ首相による新年の挨拶

▶12月31日から本年1月1日にかけての深夜, ラデフ大統領及びボリスフ首相は, メディアを通じてそれぞれ新年のメッセージ・挨拶を発信した。

▶ラデフ大統領は国営テレビを通じ, 次の挨拶を行った。

(1) 新年に際し, 高齢者, 孤独な状態にある人々, 貧困と闘っている何千人ものブルガリア人, そして何よりもブルガリアの子供達のための居場所が用意されていなくてはならない。心と善という目に見えない橋は, 人々の手で建設された橋よりもずっと永続的である。

(2) 2019年は, 我々に, 民主主義及び繁栄は普遍的な努力を必要とするということを改めて思い起こさせた。我々が妥協し, 要求することを止めたとき, 選挙は不正にまみれ, 将来に關す

る決定は暗闇で行われ, 我々の税金は無責任に使用され, 貧困が拡大し生活水準が大幅に下がる中でさえ成功ばかりが報告されることを, 改めて思い出させる年であった。

(3) 我々の社会は, 国民の威厳と繁栄のために力を結束させ, 教育, 科学及び文化に敬意が払われ, 正直さが社会的価値観の中心を占める時にこそ成功するのである。

(5) 同胞よ, 善行と未来に対する信念とともに2020年を迎えようではないか。子供達が残りたいと望み, 誇りに思う揺るぎないブルガリアのために進もうではないか。世界中に暮らしている同胞達にとり新年が有意義な年となるよう祈念する。新年が全てのブルガリアの家庭に健康と繁栄をもたらしますように!

▶ボリスフ首相はフェイスブックを通じ, 次のメッセージを発信した。

2019年は, ブルガリアにとって良い年であった。我々は重要な課題—収入の向上, 経済

成長の加速, 外国投資の拡大, 新たな雇用創出等のためによく働いた。2020年も引き続き, 我々は主要な優先課題遂行のため尽力する。教育分野及び保健医療分野の改革と同時に, これら分野への投資が我々の最優先課題である。高速道路, ガスパイプライン, 鉄道, 病院, 図書館(コミュニティーセンター), 学校, 幼稚園, 寺院, スポーツ関連施設の建設も継続する。2019年に実施された2つの選挙において我々に与えられた国民からの信頼が我々の決意の源である。改めて皆に感謝するとともに, 我々は過ちを認め, そこからの教訓を学んでいることを伝えたい。皆に, 健康, 幸福, そして新たな2020年における試練を共に乗り越えるための力が与えられることを祈念する。新年明けましておめでとう!

#### ◆ディモフ環境大臣に対する起訴

▶9日, ディモフ環境・水大臣(連立与党「統一愛国者(UP)」を構成するVMRO出身)が逮捕され, 翌10日, 同大臣は, 故意による不適切な監督によりペルニツクにおける水危機を引き起こしたとして起訴された。同日, ディモフ環境・水大臣は辞表を提出し, ポリソフ首相はこれを受理した。

▶特別犯罪裁判所は, ディモフ大臣は, 環境・水大臣としてストウデナ・ダムの水量が減少し続けていることを認識しながらも, 同ダムの水資源の工業用利用スケジュールを承認して来たと言明した。これに対し, ディモフ大臣は, 良心に従い任務を遂行して来たと言明した。

▶検察によれば, ペルニツク水危機による損害総額は約1,100万レヴァ(約550万ユーロ)と見積もられている。もしディモフ環境・水大臣がダムの水の工業用利用を許可していなければ, 今でもストウデナ・ダムには約7百万立方の水が貯水されているはずであり, 現在のような水供給制限を行う事態にはならなかったという。

#### ◆新環境・水大臣の就任

▶15日, ペルニツクの水危機を背景とするディモフ前環境・水大臣の起訴及び右に続く辞任を受け, 国民議会は, エミル・ディミトロフ国民議会議員(VMRO)の環境・水大臣就任を可決した。

▶ディミトロフ新環境・水大臣は, 1962年ペルニツク生まれ, 2001年からシメオン・サクスコブルゴツキ政権において税関庁長官を務めた。2014年以降国民議会議員(VMRO)を務める。

#### ◆社会党による4度目の政府不信任決議案提出

▶20日, ニノヴァ社会党(BSP)党首は, 4度目となる政府不信任決議案を提出し, その背景について「約50万人が水供給制限を受け, この数字は今後拡大する危険性さえ存在する。ブルガリアの国民はEUで最も汚染された空気を吸っており, ブルガリアはEUだけでなく世界中からのゴミ収集所と化している」等と説明した。

▶29日, 国民議会においてBSPが提出した政府不信任決議案に対する投票が行われ, 賛成102(BSP, 「権利と自由のための運動(MRF)」), 反対124(与党GERB, 連立与党「統一愛国者(UP)」, 無所属議員(含アタッカ党员))で否決された(可決に必要な票数は121)。BSPからの協議に応じていたヴォリヤ(ポピュリスト)は棄権した。なお, UPを離脱したアタッカ党员7名のうち6名は反対票を投じた。

#### ◆賭博法改正案と賭博業界監査報告

▶23日, 国民議会での予算財政委員会は, 賛成11(含与党GERB), 反対0, 棄権6で, シメオノフ前副首相(救済国民戦線(NFSB)党首)の賭博法修正案を承認した。同修正案によれば, 国営のブルガリア・スポーツ賭博(BST)は, ラッフ

ルやビンゴ等を除き、宝くじ業を組織できる唯一の事業体となる。

▶上記法改正案提出に先立ち、賭博運営に関する委員会の公的金融検査庁(PFIA)による2014年から2019年に実施された監査の暫定結果が明らかとなった。同報告によれば、過去5年間、BST のみが、賭金の15%の賭博手数料を支払っており、残りの2つの民間業者はBST の支払額を大幅に下回る手数料、つまり賭金と賭けの差額の20%しか支払ってこなかったとして、結果として、約2億1000万レヴァに相当する賭博業収益が未徴収である。

▶なお、2大宝くじ事業体の主要所有者であるボシュコフ氏は、メディアの前で、低額の手数料の支払いは法律違反には当たらないと述べた一方で、民間業者が BST と同様の規定額で手数料を納入していれば、民間業者は破産していたと認めた。

▶ボリスフ首相は、同措置は宝くじ業の国営化であるとの批判に対し、約30億レヴァに相当する事業を調査し、納税及び手数料支払を確保することは「国営化」に当たらないとした。

29日、賭博委員会のゲオルギフ委員長他7名は検察当局により逮捕され、尋問を受けた。ゲシェフ検事総長は、これまでに賭博委員会に対する調査で16人以上が逮捕され、同委員長は逮捕後、24時間拘留されたと説明した。この一連の動きは、宝くじの事業体の未払料金を巡る賭博委員会に関する調査の一環であった。

#### ◆賭博王ボシュコフ氏に対する起訴

▶29日、ゲシェフ検事総長は、7つの嫌疑により、ボシュコフ氏を起訴したと発表した。ボシュコフ氏は、犯罪グループの組織、強制・脅迫、公務員への贈賄への関与等の罪で、国際指名手配の身となった。ボシュコフ氏は現在国外にいるとされる。

▶ボシュコフ氏は、ウィキリークスにより公表された米国大使館の2009年の報告書において、「ブルガリアで最も悪名高いギャングスター」で

あり、「組織犯罪ビジネスから徐々に足を洗いつつある」と報告されている。また、同氏は、2018年にはフォーブスのブルガリア富豪トップ10で首位を飾った。

#### ◆ペルニック水不足問題を背景としたデモ

▶27日、「再生」党のコスタディン・コスタディノフ党首の呼びかけによりソフィア中心部にある地域開発・公共事業省前で行われたデモは、警察への通報30件以上、重傷の警察官を含む病院搬送者4名、逮捕者4名という結果をもたらした。本件デモはペルニックにおける水不足問題を背景に組織され、デモ隊は水不足問題及び大気汚染に対し責任を有するとしてアムラモヴァ地域開発・公共事業大臣の辞任を求めた。

▶12時半頃、デモ隊の一部が暴徒化し、ガラス瓶で地域開発・公共事業省のドアを叩く、警察官に対し投石する等の行動に出たため、現場にいた警察が催涙スプレーを撒く事態に至った。その結果4名(警察官への投石2名、警察官への暴行2名)が逮捕された。

#### ◆検察による大統領の電話の盗聴記録公開

▶27日、ゲシェフ検事総長は憲法裁判所に対し、刑事捜査に際する大統領の特権免除のあり方に関する憲法解釈を求める書面を送付したことが明らかとなった。ゲシェフ検事総長による諮問事項には、大統領の特権免除の範囲、大統領就任中の大統領に対する起訴手続きの停止あるいは終了の要否等が含まれている。

▶28日、検察は、3つの音声の盗聴記録を公開し、盗聴された録音記録の1つは、ラデフ大統領とストイコフ空軍司令官との電話の会話であった。同会話は2019年4月に録音されたものである。当時、ストイコフ空軍司令官の下には、ラデフ大統領が前職である空軍司令官時代に利益相反行為を犯していたという通報に基づき汚職対策委員会が調査を開始する旨を通報する書類が届いており、両者

の電話の会話はこの汚職対策委員会による書類提出要請に関するものであった。同電話の会話において、大統領と空軍司令官は、2014年のラデヴァ夫人の空軍報道官への任命、及びラデヴァ夫人の住居に関する書類の汚職対策委員会からの提出要求について協議しており、ラデフ大統領がストイコフ司令官に対し、空軍は今回の汚職対策委員会からの要求に対する回答ぶりについて大統領府に事前に相談すべきであると述べたのに対し、ストイコフ空軍司令官が同意する旨応じている。

▶特別検察は、この会話は、大統領が汚職対策委員会による調査を妨害しようとした可能性を示しているとして、ラデフ大統領に関する調査を希望した。しかし、23日、大統領の特権免除を理由に刑事訴追は中止され、これがゲシェフ検事総長による、犯罪に関する事実が見つかった場合の大統領に対する訴追の可否に関する憲法裁判所の解釈に関する諮問の背景となった。なお、これらの検察による一連の活動は、ラデフ大統領による検事総長に対するコントロールの欠如に関する批判、及び昨今の同大統領による憲法改正へ向けた動きがある中で行われた。

▶28日、大統領就任3年を振り返るための記者会見を行ったラデフ大統領は、本件に関する記者からの質問に対し、何らやましいことは無いと述べ、ゲシェフ検事総長に対して、真に汚職が存在する所に関してこそ然るべく調査をするよう呼びかけた。

## 外交

### 1. ブルガリア・米関係

#### ◆ボリスフ首相とキム米連邦検察官の会談

▶6日のボリスフ首相とキム米連邦検察官は会談を行った。キム検察官は、米司法省からルーマニア及びブルガリアに対し、ハイレベルにおける汚職、マネーロンダリング、組織犯罪との闘いを支援するため派遣された。このような米司法省からの特使派遣は2010年以来であ

る。

▶キム検察官の訪問については、昨年11月のボリスフ首相とトランプ大統領の会談の数日後に、ムスタファ米大使から発表された。当時ムスタファ大使は、米は、ブルガリアの民主主義及び市場経済の強化を支援する観点から、汚職に関わるブルガリアの公的地位にある人々に然るべき対応をとる用意がある、と述べていた。

▶首相府のプレスリリースによれば、今回のムスタファ米大使及びキム検察官とボリスフ首相の会談の主要な議題は、8日に予定される、ヘイル米國務次官が出席するブルガリア米間の戦略的対話第1セッションについてであったが、会談においては、ブルガリアにおける法の支配についても協議されたという。

#### ◆ブルガリア・米間の戦略対話の開催

▶8日、ブルガリア・米間の戦略対話が開催され、ブルガリア側からボリスフ首相、ドンチェフ副首相、ザハリエヴァ副首相兼外務大臣、カラカチャノフ副首相兼国防大臣他が、また、米側からは、ムスタファ駐ブルガリア大使、マシュー・ボイス副次官補(中欧担当)、コステランシク國務省南中欧局長、パリッシュ國務省ロシア局政務課長、クリアリー國務省エネルギー資源局欧州・西半球・アフリカ部長)他が出席した。

▶ムスタファ米大使は、開会挨拶において、この戦略的対話は、米ブルガリア関係を一層高いレベルに引き上げるための両国の努力の新たな段階として、今後も長期に亘り継続するものであると述べ、それはエネルギー分野、防衛協力、5G技術、そしてブルガリアの査証免除プログラム参加に関する協議等における合意形成という新たなイニシアティブを通じて達成されるであろうと述べた。

▶対話終了後にブルガリア首相府及び当地米大から発出された結論文書の概要では、ブルガリアと米は同盟国且つ戦略的パートナーであり、戦略対話においては、イラン、トルコ、シリア、ロ

シア、中国、そして西バルカンを含む多くのグローバルな課題、及び安全保障、エネルギー、法の支配に加え、ブルガリアが希望する査証免除プログラム及びOECDへの参加等について協議された旨が述べられている。なお、同前段においては、西バルカン地域の欧州・大西洋統合の重要性について特筆されている。

## 2. ブルガリア・EU 関係

### ◆ザハリエヴァ外相と欧州委員会副委員長等との会談

▶22日、ベルギーにて、ザハリエヴァ副首相兼外相は、ヨウロヴァ欧州委員会副委員長(価値・透明性担当)、レンデルス委員(司法担当)及びヴァールヘイ委員(欧州近隣政策・拡大交渉担当)と、欧州の課題やブルガリアと新欧州委員会間の協力に関する様々な問題について協議した。

▶ヨウロヴァ副委員長は、欧州委員会としては、「協力・検証メカニズム(CVM)」の廃止を望んでいると述べ、2007年以来続いた、「協力・検証メカニズム(CVM)」の下でのブルガリアの司法改革と腐敗・組織犯罪との戦いの進捗状況に関する欧州議会・理事会向けの報告書は必要ないと説明し、CVMの後継となる国内メカニズムの設置に関するブルガリア政府の決定を歓迎した。

▶ヨウロヴァ副委員長及びレンデルス委員は、加盟国の司法制度、汚職との戦い、及びメディアの自由の状況モニターに関する将来的且つ包括的な欧州の法の支配メカニズムの基本原則を提示し、同メカニズムに関する加盟国との協議は2月に開始され、2020年の半ばに正式発表される予定だと説明した。

## 3. ブルガリア・中東関係

### ◆イラン情勢におけるボリスフ首相の発言

▶8日、ブルガリア・米間の戦略対話の開会の場において、ボリスフ首相は、ブルガリアは、全ての外国軍の撤退というイラク側の要求に従う、

現在イラクには、イラク軍の訓練に当たっている2名のブルガリア兵士がいるが、彼らは既に安全な場所に再配置されている旨述べた。

▶また、ボリスフ首相は、「和平のみが中東問題を解決出来る。我々はイラン議会の決定に従うが、イラクにいるNATO軍はイラク政府の要請により派遣されたものであり、彼らは紛争後の脆弱な状況の安定化に取り組んで来たということ忘れてはならない」と述べた。

### ◆EU 外相理事会でのザハリエヴァ外相の発言

▶10日、外務省プレスリリースは、ザハリエヴァ・ブルガリア副首相兼外相の EU 外相理事会への出席の概要について発表した。

▶イラン・イラク情勢での緊張を受け、EU は臨時の外相理事会を開催し、中東情勢について議論した。同理事会の出席閣僚は、イラク及びその地域で新たな戦争をする余裕は無く、緊張緩和をする必要があることを満場一致で示した。

▶同理事会でザハリエヴァ外相は、中東の緊張緩和、イラクにおける対 ISIL グローバル・コアリション及びイラクでの NATO 訓練任務を維持するよう主張した。同外相は、イラクから部隊撤退は混乱を招き、ISIL の復活へと繋がり得ると述べ、また、人的犠牲と金銭的貢献を伴う国際社会のこれまでの努力を無に帰すことになることと述べた。また、同外相は、より強い権限を EU 上級代表に付与すると共に、中東への特別 EU 特使の派遣も重要な論と説明した。

▶同理事会では、リビアでの軍事的な緊張の高まりについても議論された。ザハリエヴァ外相は、リビアは我々の裏庭であり、現在70万から80万人の不法移民が滞在しており、その全てが欧州への渡航は求めているわけではないが、シリアから離れてリビアに侵入する ISIL の戦士たちは増加していると述べた。また、継続的な暴力、及び平和的施設や市民に対する攻撃を非難した。

### ◆ボリスフ首相のエジプト訪問: エジプト大統領

## とサウジアラビア・アブダビ皇太子との会談

▶15日、エジプトの紅海沿岸に位置するベレニス海軍基地の竣工式で、ボリソフ首相は、エルシーシ・エジプト大統領と会談を行い、2018年から継続されている建設的な政治対話が、政治や経済、文化、教育、観光などの全ての分野における二国間協力の新たな段階に進んだと述べ、エジプトの天然ガス源と多数のエネルギー・プロジェクトに関する二国間協力がブルガリアの特別な関心であることを強調し、アジア及び中東からの天然ガス供給は、欧州のガス利用者と輸送ハブに貢献すると説明した。

▶また、同竣工式で、ボリソフ首相はムハンマド皇太子とも会談を行い、エネルギーや、農業、観光、技術革新、高度な技術における連携について協議し、同協議においては、内務分野における良好な協力と、組織犯罪、テロリズム、麻薬密売及びサイバー犯罪との戦いも取り上げられた。

## ◆ラデフ大統領のイスラエル訪問：イスラエル大統領との会談

▶21日、ラデフ大統領が、アウシュビッツ強制収容所解放75周年記念と国際ホロコースト記念日の式典出席のためイスラエルを訪問し、右式典に先立ちリヴリン・イスラエル大統領との間で会談を行った。

▶両大統領は、イノベーションや、安全保障、水管理について協議し、イノベーションや先端技術、経済分野での二国間協力の重要な可能性を確認し、中東の和平プロセスの見通しや同地域の安定強化の必要性、安全保障とテロとの戦いでのブルガリアとの良好な協力について協議した。

## ◆ファイサル・サウジアラビア外相(皇太子)のブルガリア訪問

▶29日、ファイサル・サウジアラビア外相はザハリエヴァ副首相兼外相と会談を行い、ザハリエヴァ外相は、ブルガリアにとりサウジアラビアは、

多国間外交、経済・投資、安全保障、テロ・過激派との戦いで重要なパートナーであると説明した。ザハリエヴァ外相は、2019年最初の10ヶ月で、二国間の貿易が前年から約49%増加し、9330万ドル増加したと強調しつつ、同増加は両国の潜在能力には大きく及ばないとし、両国の最優先事項として、経済協力に関する政府間合同委員会の迅速な作業開始を双方が同意したと述べた。また、両外相は、二国間の直航便の未就航が観光分野での主要な障害であると考えを共有した。

▶ボリソフ首相との会談では、両国の良好なエネルギー協力は議題の中心となり、経済や投資、安全保障やテロとの闘い、ハイテク産業やエネルギー、農業、観光における政治的対話と協力の深化の方法に関しても協議した。また、同首相は、更なる二国間協力の強化のため、ムハンマド皇太子(副首相兼国防大臣)をブルガリアに招待した。なお、ファイサル外相は、ラデフ大統領及びカラヤンチェヴァ国民議会議長とも会談した。

## 4. その他

### ◆ボリソフ首相のダボス会議出席

▶21日、ボリソフ首相はダボス会議に出席し、各国関係者との間で10以上の会談を行った。会談の焦点は、欧州における天然ガス供給の確保及び西バルカンであった。

▶ボリソフ首相は、クラッチュ米次官(経済成長・エネルギー・環境担当)とも会談した。同会談における主要議題は、好条件の下での米からの液化ガスの輸入に関するものであり、ボリソフ首相はギリシャとのインター・コネクターやアレクサンドロポリスにおける液化ガス・ターミナル建設に関する米からの支持に対する高い評価を示しつつ、「欧州のガス地図におけるブルガリアの重要な役割の維持は、戦略的重要性を有する」と述べた。

▶ガス供給の議題について、ボリソフ首相はその他、ガハリヤ・ジョージア首相、アリエフ・アゼ

ルバイジャン大統領とも会談した。アゼルバイジャン大統領との会談においては、ブルガリアにおけるガス配給ネットワーク構築へのアゼルバイジャン企業SOCAR社による投資の可能性についても協議されたという。

▶フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長に対しては、ボリソフ首相は、気候中立性への移行に関する目標達成のためにはより多額の投資が必要となる、しかしこの移行は、欧州がその市民及び将来の世代のための環境を最優先に考えているということの証であると述べた。

▶ボリソフ首相は、西バルカンに関するセッションに出席し、同セッションにおいて、ブルガリアは同地域の欧州統合へ向けた努力を常に支持している旨、西バルカン諸国における改革推進のためにはEUの拡大政策が重要な役割を果たす旨を強調した。

▶また、同セッション後、ボリソフ首相は、プレニコビッチ・クロアチア首相及びサチ・コソボ首相と会談し、西バルカンの欧州統合及び同地域におけるNATOの役割について協議した。また、ディミトロフ北マケドニア外相との会談において、ボリソフ首相と北マケドニア外相は、来るベルリン・プロセスの共同議長について協議し、ボリソフ首相は北マケドニアのEU加盟に対するブルガリアの支持を改めて確認した。なお、ボリソフ首相はその他、チャヴォシュオール・トルコ外相、ドゥラ・ポーランド首相、シェレツツ・スロヴァキア首相、アレクペロフ・ルクオイル会長とも会談した。

#### ◆首相のアウシュビッツ強制収容所解放75周年追悼式典の出席

▶27日、ボリソフ首相はポーランドで開催されたアウシュビッツ強制収容所解放75周年追悼式典に出席した。

▶同首相は、記者会見にて、ホロコーストのような悲劇を繰り返さないようにする責任があることを全員が覚えておくべきと述べ、また、ホロコーストの歴史を守り、第二次世界大戦で苦しん

だ人々の歴史を歪めない責任があると説明した。

▶また、同首相は、ブルガリアの人々、特に若い世代のブルガリア人は、ナチスの死の収容所からブルガリアのユダヤ人を救出したことを誇りに思うべきであるとしつつ、この救出の歴史が異なる民族、宗教及び文化の人々間の寛容、理解、愛の教訓を伝えてくれると述べた。

#### ◆コンテ・イタリア首相のブルガリア訪問：ボリソフ首相との会談

▶30日、ボリソフ首相は、ブルガリア・イタリア外交関係樹立140周年記念のため、ブルガリアを訪問しているコンテ・イタリア首相と会談を行った。ボリソフ首相は、ブルガリアにとり、イタリアはEUにおける重要なパートナー且つNATOの同盟国であり、友好的な二国間関係が存在するとしつつ、更なる関係の発展のため、様々な分野での政治対話を行い、共通の利益に関わる問題に協力すると述べた。

▶ボリソフ首相は、戦略的な南回廊におけるガス・プロジェクトの実施におけるイタリアの役割及び同地域のエネルギー安全保障の向上をイタリアが期待していることを踏まえ、エネルギー分野での協力強化を求めた。昨年9月にブルガリアのBulgartransgazとイタリア・サウジアラビア合弁のArcad Consortiumとの間で契約が締結された、ブルガリア領内におけるトルコ国境からセルビア国境までのバルカン・ストリームの建設においても、イタリアの役割は重要であり、ブルガリアのエネルギー安全保障の強化及び多様化に寄与するものである。

▶コンテ首相は、両国は、イタリアからの違法廃棄物輸送問題に対し積極的に取り組むと述べ、右の輸送を停止するよう、自国の内務大臣に指示したと述べた。また、ボリソフ首相は、1週間以内に両国が協力し、EU内における物の移動の自由を利用し、法の目を潜る実態の調査を実施すると説明した。

▶ボリソフ首相は、両国の良好な貿易・経済協

力を強調しつつ、イタリアからの投資増加とブルガリア製品のイタリアでの市場拡大の希望の意を表明した。二国間の貿易に関して、2017

年比で、2018年は10.2%増加し、総貿易額は48.6億ユーロに達した。

## 経済

### 1. マクロ経済

#### ◆第3四半期経済成長他

▶3日、財務省は、月次報告書の中で、ブルガリアのGDP成長率が、前四半期の3.8%から2019年の第3四半期には3.1%に減速した旨を発表した。報告書によると、個人消費の伸びは一人あたりの低い賃上げ率に伴い鈍化したが、一方で公共消費は拡大した。2019年の第3四半期は、経営者層に不確実性が高まり、またビジネス環境評価も悪化したが、設備投資は0.9%増加した。

▶他方、輸出は1.8%増加で成長に戻り、輸入面でもある程度回復し、第2四半期も引き続き純輸出はプラスとなった。サプライサイドでは、製造業と不動産業に支えられて、総付加価値(GVA)は前年比で3.1%上昇した。消費者間の信頼感は僅かに低下しているものの、11月には5月以来全体的なビジネス環境指標が増加した。これは、サービス業と工業のビジネス環境はほぼ横ばいのままだが、小売業と建設業の増加によって改善したものである。

▶9月の経常収支はプラスであり、2019年初頭から蓄積された余剰金はさらに増加の一途をたどり、予想GDPの8%まで上昇した。対外債務の状況は9月末に改善された。純債務がマイナス4.1%に達したが、債務総額は予想GDPの56.4%に低下した。これは、負債を超える外国資産の超過を示している。

▶民間部門への与信は、10月も引き続いて加速し、前月比で7.1%、前年比で7.3%増加した。非金融企業と家計の両方への貸付はある程度増加したが、不良債権と条件緩和債権は急速に減少し続けた。住宅ローンの大幅な増加(9月の13.6%と比較して10月の14.1%)により、家計向けの貸付がプラスに発展した。

消費者ローンは、前年の一ヶ月前近くの10.8%に達した。

#### ◆2019年度歳入他

▶11日、国家歳入庁(NRA)は、2019年度の税収及び社会保険料による歳入が238.7億レヴァ(約1兆4300億円)であると公表した。昨年度と比べて28億レヴァ増加しており、当初予測よりも6億2800万レヴァ上回った。ディミトロフNRA長官は、「2019年度歳入は、記録的な高さとなり、遙かに経済成長率を凌いでいる」と述べた。

▶税収は、個人所得税収36億レヴァ、法人税28億レヴァ及びVAT68億レヴァを含め総額133億レヴァであった。社会保険料は、公的社会保険料62億レヴァ、健康保険料26億レヴァ及び義務的な年金保険料15億レヴァを含め総額103億レヴァであった。

▶ボリスフ首相は、自身のフェイスブックにおいて、2019年11月の失業率が3.7%まで減少したと述べた。これは、ブルガリアの失業率データがユーロサットで扱われるようになった2000年以降最も低い数字である。同首相は、「我々は、2020年もブルガリアの市民、従業員及び投資家にとって良い労働市場の状態を確保するために効果的に行動する」と述べた。

#### ◆2019年度貿易統計

▶国立統計局は、2019年1～11月の貿易統計を公表した。同時期のブルガリアの輸出総額は、537億5820万レヴァ(約3兆2254億9200万円)であり、昨年度よりも3.7%増加した。輸入総額は、563億2490万レヴァ(約3兆3794億9400万円)(CIF価格)であり、昨年度よりも2.9%減少した。

▶同時期の貿易収支は、25億6670万レヴァ



(輸出FOB, 輸入CIF)の赤字であった。対第三国輸出は、昨年度よりも4.5%増加し、175億4970万レヴァであった。対第三国輸入は、昨年度よりも12.5%減少し、185億730万レヴァであった(CIF価格)。最大の輸入国は、トルコ、ロシア、中国、セルビアであった。第三国との貿易収支は、9億5760万レヴァ(輸出FOB, 輸入CIF)の赤字であった。

▶2019年1～10月の対EU輸出は、昨年度よりも3.4%増加し、326億8110万レヴァ(約1兆9608億6600万円)であった。ブルガリアの主要な輸出国は、ドイツ、ルーマニア、イタリア、ギリシャ、フランス、ベルギーであり、全輸出額の66.2%を占めた。同時期の対EU輸入は、昨年度よりも2.6%増加し、341億1270万レヴァであった(CIF価格)。主要な輸入国は、ドイツ、イタリア、ルーマニア、ギリシャ、スペインであった。同時期の対EU貿易収支は、14億3160万レヴァの赤字であった。

## 2. 経済政策, 産業

### (1) エネルギー関連

#### ◆トルコ・ストリーム開通式

▶8日、ボリスフ首相は、エルドアン大統領の招待に応じ、イスタンブールにおけるトルコ・ストリーム開通式に出席した。ロシアとトルコを黒海経由で接続するパイプラインは、ブチッチ・セルビア大統領及びボリスフ首相の立ち会いの下、プーチン大統領及びエルドアン大統領によって始動した。

▶トルコ・ストリームは、トルコ及び欧州の53百万人に対して天然ガスを供給する。ボリスフ首相は、式典に先だって3首脳と会談した。同首相は、「ブルガリアは、今後50年間のガス供給の多様化のために取り組んでいる」と述べた。また、同首相は、プーチン大統領に対し、「474 kmのパイプラインはサウジアラビア、イタリア及びトルコ企業が完成させる」と確約しつつ、バルカン・ストリームの進捗状況について説明した。

▶また、同首相は、エルドアン大統領からの招待に謝意を表明しつつ、幅広い政治・経済の二国間協力について協議し、移民問題に係るトルコの役割と2016年3月のEU・トルコ声明の履行を評価した。また、両首脳は、中東情勢についても協議し、ボリスフ首相は、問題は対話と平和のみによって解決されるとの立場を述べた。

▶式典後、4首脳は、ワーキング・ディナーにおいて4カ国の政治・経済関係や国際問題について協議した。

#### ◆トルコ・ストリーム: 米による反対の立場表明

▶11日に放送されたブルガリア国営ラジオ(BNR)のインタビューにおいて、ヘイル米国務次官は、ブルガリア経由で南東欧州に天然ガスを供給することを目的とするトルコ・ストリームの第2支流を、米国はロシアの地政学的プロジェクトとして認識しており、故に米国は同プロジェクトに反対であると述べた。

▶同国務次官によると、欧州に影響を行使し、分断を促進させるための政治的手段としてロシアはエネルギーを利用しているとし、ノルド・ストリーム2とトルコ・ストリームの第2支流は欧州のエネルギー供給源の多様化に寄与しないと説明し、また、ウクライナを迂回することから同国を不安定化させると述べた。また、ロシアのエネルギー・プロジェクトは、ロシアに欧州を威圧するための追加的手段を与えるため、不安定性の増大に寄与するとも指摘した。

#### ◆アレクサンドロポリス LNG ターミナル競争入札

▶1月9日から2月24日にかけて、アレクサンドロポリス LNG ターミナルの輸送容量予約のための法的拘束力のある入札が行われている。8日には、ブルガルトランスガス(BTG)と、同社が20%の株を購入するターミナル・プロジェクト会社 Gaztrade との仮契約が締結された。なお、他の利害関係者との株主契約合意についても、近日中に署名される予定である。

▶同ターミナル・プロジェクトの採算性を示すことから、現在実施されている容量予約のための法的拘束力のある入札に向けた市場化テストは重要な段階であり、十分な入札があれば建設が開始されることとなる。この前段階として、昨年12月21日まで最初の市場化テストが実施されていた。同プロジェクトに対する関心は非常に高く、第一回市場化テストにおいては、容量55億立方メートルの予定のところ、20社による計122億立方メートルとなる LNG 輸送容量予約のための入札があった。

▶現在行われている第二回入札には、ブルガルトランスガス(BTG)も参加予定である。ブルガリア政府は、ブルガルトランスガス(BTG)が3-5年間、最小で3億立方メートル、最大で5立法メートルの入札することを決定した。同社は、可能な限り低価格で、少量且つ短期間のための入札を予定しており、より高価格で大量且つ長期間のための入札が他業者からある場合には競争から降りる可能性がある。

▶同プロジェクトは、ブルガリア・ギリシャのインターコネクタ経由で、天然ガスをブルガリア、セルビア、ルーマニアに供給し、また建設中のブルガリア、セルビア、北マケドニア、ルーマニア、トルコ、その後ウクライナ、モルドヴァ、ハンガリーのパイプラインにも供給される予定である。

#### ◆ペトコヴァ・エネルギー大臣の米国訪問:エネルギー長官他との会談

▶27日、訪米中のペトコヴァ・エネルギー大臣が、メネゼス・エネルギー長官、ストーチ・国際経済担当大統領副補佐官、ファン・エネルギー資源担当国務次官、タシャルスキ・商業サービス審議官、ガンザー・国際安全保障・不拡散局国務次官補及び米国の液化天然ガス(LNG)業界の代表者と、二国間関係の促進について協議した。

▶各会談においては、ペトコヴァ大臣は、ブルガリアは、天然ガスの供給源と供給ルートが多様化を引き続き追求すること、また、ブルガリアと

米国には、LNG の分野で協力する多くの機会があることを説明した。また、同大臣は、ブルガリアの天然ガス消費の50%が今年末までに多様化されると述べ、右水準は、毎年国内で消費される30億立方メートルの半分に当たる15億立方メートル分が、ロシア以外の供給源から輸入されることを意味し、これらには、アゼルバイジャンと米国が含まれる。米国からブルガリアへの LNG の供給は2019年6月に開始され、2019年末までに、ブルガリアは5億立方メートルの LNG を輸入した。

▶ペトコヴァ大臣は、メネゼス・エネルギー長官との会談で、ギリシャ・ブルガリア・ガス・インターコネクタ(IGB)の建設を含む、重要なインフラ計画の進捗状況を説明した。また、ペトコヴァ大臣は、ストーチ・国際経済担当大統領副補佐官との協議で、米国はエネルギー分野での戦略的パートナーであり、二国間の協力は、ブルガリアのエネルギー安全保障の強化及びエネルギー供給の多様化に資すると説明し、ブルガリアは、IGB の建設やギリシャのアレクサンドロポリスの LNG ターミナル建設含む主要なインフラ計画に対する米国のパートナーからの支援に感謝すると述べた。また、両者は、核燃料供給の多様化のため、ブルガリア向け米国の核燃料認証供与プロセスについても協議した。

#### (2) 運輸、インフラ

##### ◆ブルガリア国鉄の列車調達入札

▶ブルガリア国鉄旅客サービス部門は、主な内陸線沿い且つ3時間以上の都市間旅客サービス向けに、最大16列車の供給とメンテナンス保証のための公共調達手続きを開始したと発表した。

▶調達費用は、VAT 抜きで246,787,878.93レヴァ(約1億2600万ユーロ)と予測され、各列車は4又は5両の快適性の高い車両によって構成され、一等車と二等車が分かれ、車椅子利用者とベビーカー用の空間、ビデオ監視システム、Wi-Fi サービス、オプションのケータリング

用空間が備えられる。入札業者を選択するための主な基準は、列車の購入価格、メンテナンス費用、及び乗客一人当たりの交通費となる。手続きは、申請書と技術および価格の申出の提出の2段階構成である。

▶新しく製造される列車は、契約署名日から36ヶ月以内に供給され、その日から2ヶ月以内に初運行が可能となる。この手続きは、鉄道旅客輸送条件を改善し、既存の列車のリハビリや新しい車両の購入を含む公共鉄道網の戦略的発展を促進するための計画の一部である。

▶また、同サービス部門によれば、貨物輸送量は昨年以降増加傾向にあり、2020年には750万トン以上の貨物輸送が予定されている。

### 3. その他

#### ◆気候変動:EUの気候変動政策に対する反応

▶6日、ドンチェフ副首相及びペトコヴァ・エネルギー大臣は、ブルガリア産業界代表者と会談し、各分野の改革案について協議した。同会合には、ブルガリア雇用者産業界同盟(KRIB)、ブルガリア産業界資本協会(BICA)、ブルガリア産業界協会(BIA)、ブルガリア商工会議所(BCCI)、ブルガリア独立労働組合連合(CITUB)等が参加した。同会合の主要な議題はEUグリーン・ディールであった。昨年の12月に欧州委員会によって発表された同政策は、2050年までに欧州をカーボン・ニュートラルにすることを目指している。

▶ディミトロフCITUB代表は、国営ラジオのインタビューにおいて、グリーン・ディールに関し、ブルガリアは最大の敗者になると述べた。同代表は、ブリュッセルが施行を計画している環境要求事項に関して、ブルガリアは強く譲歩を促すべきと主張し、この新しい対策により、ブルガリアの輸送業、農業、採掘産業が打撃を受けると付け加えた。また、同代表によれば「エネルギー大臣との会合において、同大臣は、50パーセントの炭素削減という2030年の目標を達成するためには、推定100億ユーロ相当の原子

力発電所の新設も含め、250億ユーロほどの費用がかかると述べた」という。

▶また、ヴェレフBICA会長は、ブルガリアはEUの定める環境基準を満たせないであろうから、2025年1月にブルガリアの火力発電所は停止に追い込まれるとの可能性を指摘し、石炭火力発電を代替する発電所の不足が重要な問題であると説明し、そのため、ブルガリアは再生可能エネルギーと貯蔵に関する欧州の研究プログラムに参加すべきと提言した。

#### ◆環境プロジェクトへの融資

▶15日、マプロディエフ・ブルガリア開発銀行(BDB)理事は、ウィーンにおける中東欧フォーラムにおいて融資案件の少なくとも15%を省エネ及び環境イノベーションのために投資する旨発言した。

▶同理事は、「ブルガリアの国家エネルギー修繕プログラムは、明らかに成功している。同スキームの下、全国2021件の住宅が修繕され、年間30.9万トンの炭素排出量を削減した。今後3年間、開発銀行は、再生可能リソース、脱炭素化、環境イノベーション、グリーン・インフラ、持続可能な農業等からクリーン・エネルギーを生産するためのプロジェクトを支援することによってグリーン投資に集中する。投資から得られる利益の不確実性を低減するために、開発銀行は、当該セクターの企業に対して保証やリスクを分担する手段、並びに長期信用を提供する」と発言した。

▶また、同理事は、欧州の開発銀行が欧州委員会、欧州投資銀行及び各国政府のグリーン投資プログラムにおける主要な役割を担っているとしつつ、環境に優しい経済やエネルギー開発を促進するために、各国は法改正を行うべきであると述べた。

#### ◆ニコロヴァ副首相の訪中:第17回ブルガリア・中国政府間経済協力委員会の出席他

▶15日、北京に拠点を置くAIIBのアレクサン

ダ一副総裁と会談し、ブルガリアは自国経済への投資を誘致し、高付加価値の資本集約的且つ革新的な生産の開発を目指し、政府保証を必要としない資金調達のための革新的な金融モデルの設計について説明した。他方、アレクサンダ一副総裁からは、これまで資金提供した、主にインフラ、輸送と連結、上下水道、エネルギーに関する加盟国におけるプロジェクトのポートフォリオを説明し、ブルガリアを AIIB に招待した。同会談は AIIB の4周年の記念前夜に開催された。

▶同日、ニコロヴァ副首相は、韓国系中国企業の Sungo Motors とそのパートナー会社である Hadid Holding のブルガリアでの電気自動車工場の建設計画に関する2億ドルの投資の協議の完了のため、Sungo Motors の経営者と達州市長とも会談し、両社は先月にブルガリア投資庁と署名した覚書上に工場建設の意向を表明したとし、達州市長はニコロヴァ副首相に同プロジェクトが地方政府に紹介されることを保証した。

▶16日、ニコロヴァ経済・人口政策担当副首相が、中国ブルガリア・ビジネス・フォーラムにおいて、「中国はEU以外では2番目に大きな輸出相手国である。特にアジアで知られているブルガリア製品は対中輸出が更に拡大するチャンスがある。ブルガリア・中国間の貿易協力は着実に増加し、ブルガリアで独自の産業の確立を目指す中国企業にとって、インフラが整備されたブルガリアの産業地区への投資は絶好の機会だ」と述べた。

▶また、中国ブルガリア・ビジネス・フォーラムは、ブルガリア中小企業促進庁と中国の国際契約業者協会の支援により開催され、合計 24 のブルガリア企業が参加した。

▶第17回ブルガリア・中国政府間経済協力委員会では、貿易と経済関係、投資促進、エネルギー、技術革新、農業、観光などの分野での実用的な協力を強化するための二国間の取決への署名が行われ、同文書には、両国がインフラや

産業、商業の分野で協力するための9つのプロジェクトが盛り込まれた。

▶17日、在北京ブルガリア大使館で、ニコロヴァ経済・人口政策担当副首相の出席の下、ヤネフ投資庁長官は、中国企業の Jiangsu Alfa Bus Corporate と ACN Worldwide との間で覚書に署名した。これによって、ブルガリアでの電気バス製造施設と研究開発センターの設立に両者が協力し、総投資額 2,500 万ユーロ且つ 250 人の雇用が創出される見込み。Jiangsu Alfa Bus Corporate は、自社製の機器と最新技術を駆使して 2012 年に最初のバス・ブランドを設立した中国初の電気自動車メーカーの1つである。

▶同日、ニコロヴァ副首相は、CITIC Construction Corporate の取締役会長とブルガリアでの官民共同のインフラ・プロジェクト実施について協議し、同社は欧州でのプロジェクトがまだ無いため、ブルガリアが共同プロジェクト実施のための最初の国になることを希望するとともに、同社が CITIC グループの子会社で工業生産や機械工学、農業などの多くの分野で活動しており、これら全ての分野でブルガリアのパートナーと協力し、官民共同のインフラ・プロジェクトの実施に関心があることを説明した。

#### ◆ボリスフ首相とゲオルギエヴァIMF専務理事との会談(ユーロ加盟・ERM II 参加)

▶19日、ボリスフ首相とゲオルギエヴァIMF専務理事(ブルガリア出身)が会談を行い、ボリスフ首相は、ブルガリア政府の適切な財政政策の結果を提示した。首相府プレスリリースは、会談においてボリスフ首相は、ブルガリアのERM II 参加にプラスの影響を及ぼし得る順調な経済成長を含む財政政策の結果を説明したと発表した。

▶ゲオルギエヴァIMF専務理事は、ブルガリアの財政政策分野における成果に対する祝意を述べ、政府運営プログラムにおける優先事項実現へ向けた良い刺激となるだろうと述べた。

▶政府筋によれば、会談では、迫りつつある不

況の中で如何にしてブルガリア経済の成長率を維持するか、そしてブルガリアのユーロ圏参加に関する政治的決定が行われる際には、ゲオルギエヴァIMF専務理事が重要な役割を果たし得るであろうという点についても協議されたという。

#### ◆廃棄物輸入問題

▶20日、検察当局は記者会見を行い、ブルガス港で発見されたイタリアからの違法廃棄物は、有害物質ではないと発表した。ブルガス港でイタリアからの違法廃棄物を含む20コンテナが発見されてから捜査が開始され、昨年9月初旬からそこに当該廃棄物が置かれていることが分かっている。

▶ブルガリア国内の様々な場所で廃棄物が発見されている。情報の欠如や廃棄物が置かれている状況が奇妙なこともあり、また、昨今の大気汚染とも相まって、当該廃棄物が有害物質なのではないか、といった噂が広がり、ブルガリア国内における違法な廃棄物の焼却処分が行われている。

▶ブルガス地方検察のチネフ検事長によれば、ブルガス港に廃棄物を送ったのは、イタリアの「Dentice Pantaleone」社で、受け取りは「Blatsion OOD」社であるが、これはヴァルナで発見された廃棄物と同じ送り主と受け取り主である。チネフ検事長は、「書類上の廃棄物はプラスチック及びゴムであり、コンテナの中身と一致していない。廃棄物はプレーベンに運ばれることになっていた」と述べた。検事当局は、廃棄物の正体を明らかにするために更なる試験を行うとしつつ、「廃棄物の調査を行うために国際警察機構の協力を仰ぐ用意がある」と述べた。

▶廃棄物を購入した「Blatsion」社のアンゲロフ社長(マケドニア人)は、マケドニアの記者に対し、廃棄物は、ボボフ・ドル石炭火力発電所で焼却される予定であったが、当該発電所の焼却許可書が失効してしまったために発電所には届けられなかったとしつつ、「ブルガリアは、木くず、織

維、ガラスの輸入を禁止してはいない」と述べた。なお、先週、ディミトロフ環境大臣は、ボボフ・ドル発電所において有害な廃棄物が焼却されたことはないと述べており、実際、当該発電所は、廃棄物を焼却する設計にはなっていない。

#### ◆電力輸入

▶本年1月最初の19日間、ブルガリアは数十年振りに電力を輸入した。これは、現在の発電能力が需要を上回っているからではなく、国内で発電される電力の価格が輸入するよりも高いことが原因である。このため、現在の発電量は、昨年と比較して15%も低下している。

▶本年1月1～20日におけるブルガリア国内での発電価格は、1MW/時あたり54.86ユーロであるのに対して、ルーマニアが52.40ユーロ、ハンガリーが52.67ユーロ、セルビアが53.69ユーロ、トルコが47.76ユーロであった。なお、ギリシャは、ブルガリアよりも高額となっている。

▶なお、ブルガリアにおける電力輸入が増加している理由は、輸入価格が安いというだけではなく、ルーマニア国境地域は、地域全体で一括して電力が供給されているという事情も影響している。

#### ◆固定為替相場変更の可能性

▶27日付当地各紙は、現在提出されている法案がブルガリア通貨レヴァとユーロとの固定為替相場を変更することに繋がるのではないかと報じているところ、概要以下のとおり。

▶与党GERBは、ユーロ圏参加交渉の中で、レヴァーユーロ為替レートを危機に晒している。現在、提出されているブルガリア国立銀行法改正案は、ブルガリアがユーロ圏に参加する際に保有通貨の減少を招き、現行のレヴァーユーロ固定為替相場を変更する懸念を惹起する。

▶改正案は、1月23日にストヤノヴァ国民議会予算委員長を含む与党GERBによって、第一読会を通過した外国為替法の最終条項を通し

て提出された。ブルガリア政府又は欧州中央銀行がレヴァの価値は過大評価されていると言うことは理論上の可能性に過ぎないが、無視することは出来ないのではないか。

▶ストヤノヴァ委員長は、固定相場制は変わらないとしつつ、改正案の如何なる解釈も憶測にしか過ぎないと退けた。また、金融専門家のチョバノフ氏は、交渉の終盤になって新たな条件を設定することは避けるべきであり、政府は、ユーロ圏参加交渉の際も、1ユーロを1.95583レヴァとする為替レートを堅持しなければならないと述べた。

▶国立銀行及び財務省は、固定相場制が危険に晒されているということはなく、政府が繰り返し述べてきたとおり、固定相場制はユーロ圏に参加し、ユーロを受け入れるまで維持されると述べている。

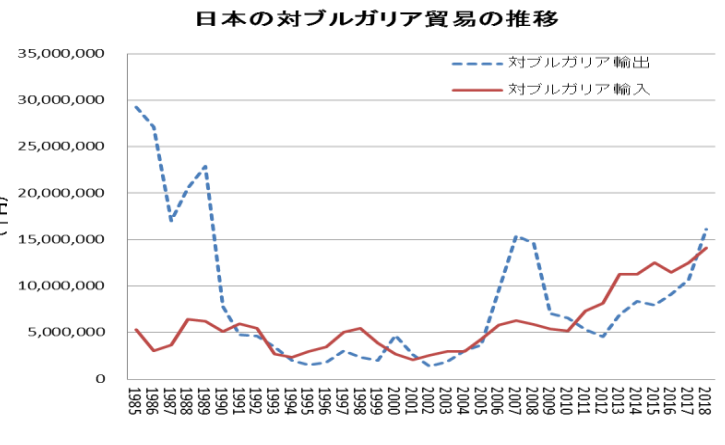
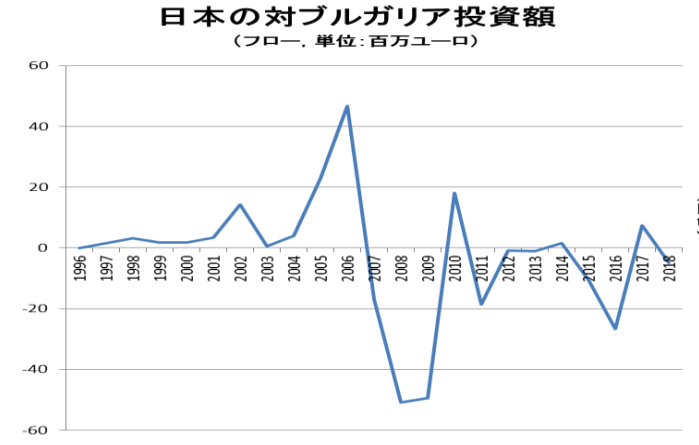
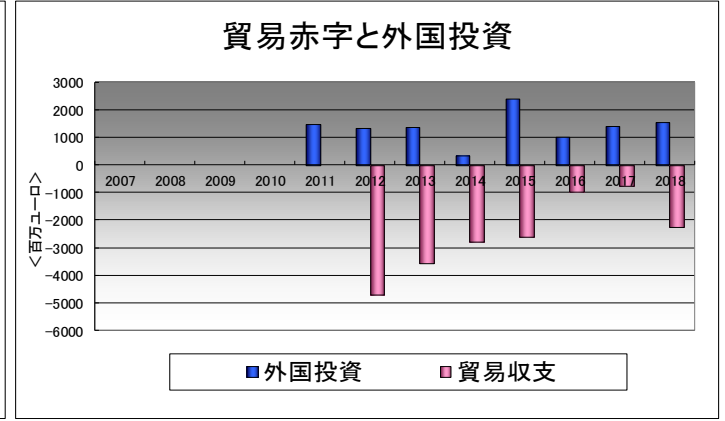
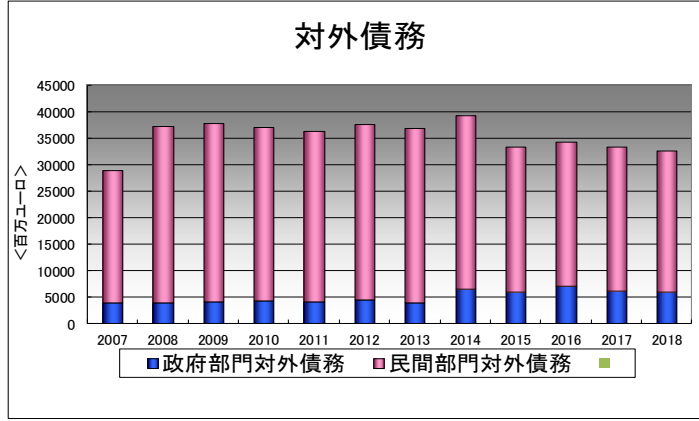
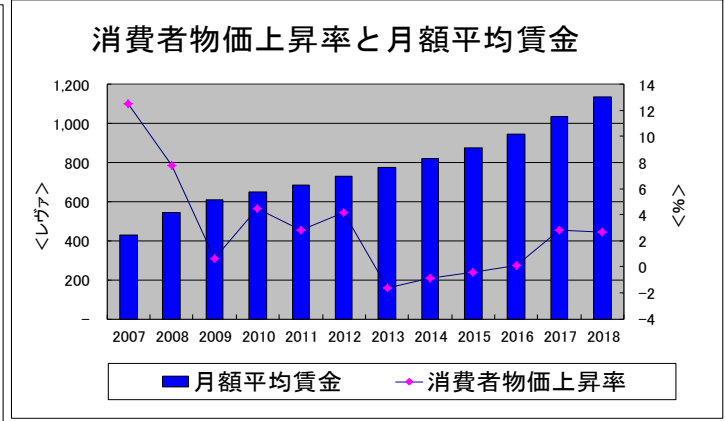
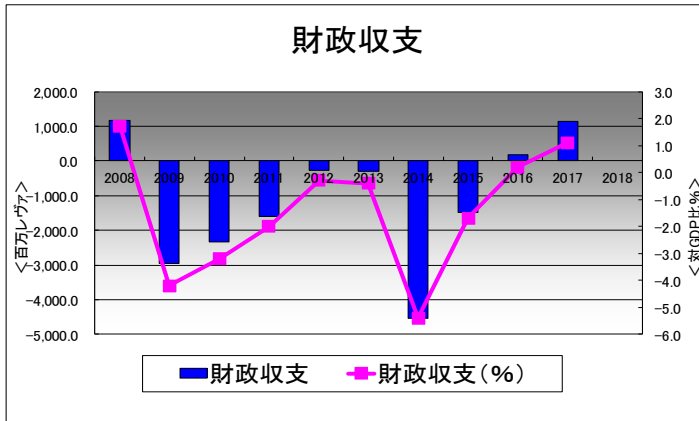
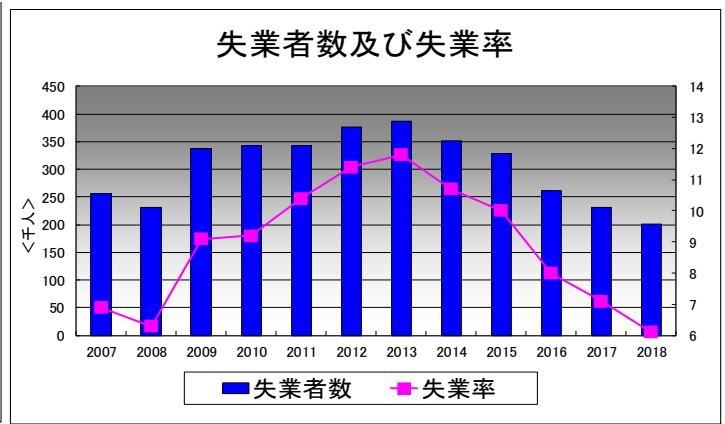
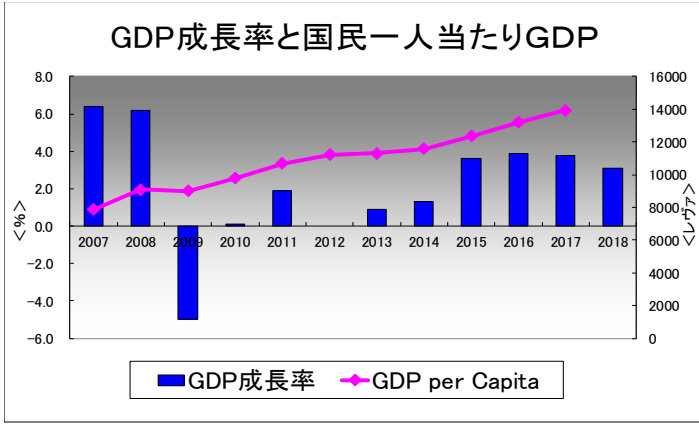
## ブルガリア内政・外交の動き（1月）

在ブルガリア大使館

1（水）	
2（木）	
3（金）	
4（土）	
5（日）	
6（月）	
7（火）	★ブルガリア・米戦略対話の開催
8（水）	★ブルガリア・米戦略対話の開催 ☆ボリスフ首相のトルコ訪問：トルコ・ストリーム開通式出席
9（木）	
10（金）	ディモフ環境・水大臣に対する基礎 ☆ザハリエヴァ外相のEU外相理事会出席
11（土）	
12（日）	
13（月）	
14（火）	
15（水）	ディミトロフ環境・水大臣の就任 ☆ボリスフ首相のエジプト訪問：エジプト大統領とサウジアラビア・アブダビ皇子との会談
16（木）	
17（金）	☆ニコロヴァ副首相の中国訪問：第17回ブルガリア・中国政府間経済協力委員会の開催
18（土）	
19（日）	★ゲオルギエヴァ IMF 専務理事のブルガリア訪問
20（月）	
21（火）	☆ラデフ大統領のイスラエル訪問：イスラエル大統領との会談 ☆ボリスフ首相のダボス会議出席
22（水）	☆ザハリエヴァ外相と欧州委員会副委員長他との会談
23（木）	
24（金）	
25（土）	
26（日）	
27（月）	☆ボリスフ首相のポーランド訪問：アウシュビッツ強制収容所解放 75 周年追悼式典出席 ☆ペトコヴァ・エネルギー大臣の米国訪問：エネルギー長官他との会談
28（火）	
29（水）	★ファイサル・サウジアラビア外相（皇太子）のブルガリア訪問
30（木）	★コンテ・イタリア首相のブルガリア訪問
31（金）	

★来訪 ☆往訪

# ブルガリア経済指標の推移 (出典：国家統計局, 中央銀行, 財務省 (日本) 貿易統計)





## ブルガリア主要経済指標 (出典: 中央銀行)

### < GDP成長率と国民一人当たりGDP >

		2016	2017	2018	2019	2019 Q1	Q2	Q3	Q4
GDP成長率	(%)	3.8	3.5	3.1		4.5	3.8	3.1	
GDP per Capita	(BGN)	13,341	14,459	15,615		n/a	n/a	n/a	n/a

### < 財政収支 >

		2016	2017	2018	2019	2019 Q1	Q2	Q3	Q4
財政収支	(million BGN)	85.2	1,120.3	1,921.1		1,481.3	1,534.7	576.8	
財政収支GDP比	(% of GDP)	0.1	1.1	1.8		1.2	1.3	0.5	
一般政府総債務	(% of GDP)	29.3	25.3	22.3		19.7	19.7	20.1	

### < 失業者数及び失業率 >

		2016	2017	2018	2019	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan
失業者数	(千人)	261	232	201	195	195	184	175	170	173	173	173	183	189	195	205
失業率	(%)	8.0	7.1	6.1	5.9	5.9	5.6	5.3	5.2	5.3	5.3	5.3	5.6	5.8	5.9	6.3

### < 消費者物価上昇率と月額平均賃金 >

		2016	2017	2018	2019	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan
消費者物価上昇率	(%) (前期比)	0.1	2.8	2.7	3.8	0.1	0.5	0.1	-0.6	0.8	0.1	-0.3	0.8	0.5	0.7	0.9
月額平均賃金	(BGN)	948	1,037	1,146		1,247	1,281	1,246	1,253	1,257	1,224	1,266	1,296	1,294	1,349.0	

### < 対外債務 >

		2016	2017	2018	2019	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan
政府部門対外債務	(million EURO)	7,234.0	6,343.6	6,124.2		6,010.3	5,933.4	5,952.0	5,970.2	5,988.9	5,970.9	5,977.0	6,170.0	6,221.0		
民間部門対外債務	(million EURO)	27,421.3	27,867.7	27,031.7		27,985.8	28,013.7	27,919.3	28,018.5	#####	28,286.1	28,324.0	28,327.9	28,331.3		

### < 対内直接投資と貿易収支 >

		2016	2017	2018	2019	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	Jan
対内直接投資	(million EURO)	927.2	1,618.9	537.1	629.9	70.5	269.1	376.6	531.8	923.9	878.3	812.2	804.7	796.9	629.9	
貿易収支 (FOB-CIF)	(million EURO)	-984.4	-765.8	-1,858.0	-128.0	-330.0	-334.5	-392.8	-298.5	-284.3	-117.9	24.2	102.9	160.9	-128.0	
輸出 (FOB)	(million EURO)	23,103.6	26,950.0	27,744.2	28,875.8	7,022.7	9,367.7	11,756.5	14,072.2	16,732.0	19,126.1	21,563.5	24,252.7	26,756.6	28,875.8	
輸入 (CIF)	(million EURO)	24,088.0	27,715.9	29,602.2	29,003.8	7,352.6	9,702.2	12,149.3	14,370.7	17,016.3	19,244.0	21,539.4	24,149.7	26,595.8	29,003.8	